

宇梶剛士さんが小郡にやっってくる!

これまで小郡市では、「同和」問題をはじめとしてあらゆる差別の解決をめざし、様々な取り組みをしてきました。そのことによって多くの市民の方々が、人権は尊重すべきものであることを理解してきておられることが、市民意識調査の結果から明らかになっています。

そこで、市民のみなさんが人権問題と自分自身とのかかわりを見つめ直し、人権問題を解決していくための主人公として生活されるためのお手伝いをするのが人権センターの役割ではないかと考えています。

そうした取り組みの一つとして、私たちは公開講座を企画し、これまで阿部謹也さん、石坂啓さん、山口由美子さんらをお迎えしてお話をうかがってきました。そして本年度の講師として名前があがってきたのが俳優の宇梶剛士さんでした。

テレビで自分を語る宇梶さんを初めに見た時の印象は、「巨大暴走族のリーダーまでのし上がったという話だけど根は優しい人なんだろうな」という程度でした。しかし話が進み、わが子について語る場面になった時、自分のいきざまをプラスに転化した、決して平坦な道を歩んでこなかったこの人だからこそ持ち得たのであろう大きな愛情を感じ、心を打たれました。

私たちは日ごろ、「罪を憎んで人を憎まず」という言葉などにうなずいていますが、一方で人生の中で大きな失敗や挫折をしてしまった人に対し、あまりにも簡単にレッテルを貼り排除するなどしてはいないでしょうか。人権問題について取り組んでいるはずの私たち職員自身も、宇梶さんの話を聞きながら振り返ってみると、知らず知らずのうちにそのようにして人を傷つけていることが多々あることに気づかされました。

そんな宇梶さんのお話を、ぜひこの小郡で市民のみなさんと一緒に生で聞きたいという思いが募る一方、果たして予算も日程も限られた中、有名で多忙なあの宇梶剛士さんが小郡まで来て下さるだろうかと心配もしました。しかし、昨年度宇梶さんが講演された自治体の方をはじめ、いろんな方々のご厚意を頼りにお願いした結果、ついにそれが実現しました!

下記の日程で人権センター公開講座の講師として、宇梶さんにお話しいただく予定ですが、当日は入場希望者が会場収容人数以上の多数にのぼることも予想されます。そのため、入場は事前学習会参加者の方を優先とし、入場整理券ご持参の300名のみとさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

(文・有田)

人権センター公開講座(4)

「失敗から学ぶこと」

2月23日(土) 14:00~16:00 生涯学習センター・七夕ホール

※事前学習会 2月13日(水) 19:30~21:00 人権センター

◎この事前学習会の開始時刻から当日の入場整理券を配ります。

「人権のまち・小郡」を 協働で創りましょう

— 小郡市の人権教育・啓発基本計画ができました! —

あらゆる差別をなくし、市民一人ひとりの人権が保障される「人権のまち・小郡」を創造するため、市民と小郡市が協働して取り組むための計画です。

子どもの人権を守る

たとえば

- ・家庭・地域の連携を強める
- ・家庭や子どもに関する相談機能を強化する
- ・子育てネットワークを充実させる
- ・関係機関と連携していじめ、不登校問題の解決を図る

2000年（平成12年）、国は「人権教育・啓発推進法」を定めました。その中に、「地方自治体は人権教育・啓発に関する施策を作り、実施する責務がある」と述べています。そこで市は「小郡市人権教育・啓発基本計画」を作り、様々な取り組みを「人権」の視点で見つめ直すことにしました。この基本計画では「施策の方向性」を示し、これを基に今後具体的な取り組みを進めていきます。

くわしくは市役所
または当センターに
お問い合わせください

同和問題の解決を図る

たとえば

- ・教育・啓発の充実を図る
- ・個人情報保護を
- ・自立支援や仕事保障に取り組む

障害のある人が自立し 社会に参画していくために

たとえば

- ・教育や啓発を充実させる
- ・相談窓口を充実する
- ・必要な情報を提供する
- ・福祉サービスの充実を図る
- ・就職の促進を図る

外国人の人権を 保障する

たとえば

- ・教育や啓発を進める
- ・多言語による行政サービスを実施する
- ・就職の支援を行う

高齢者の人権を守る

たとえば

- ・学校教育や生涯学習の中で高齢者の人権を守る教育・啓発を行う
- ・相談窓口を充実させる
- ・就職などの情報を提供する
- ・様々なバリアフリーを進める

男女が共同して 参画できる社会を実現する

たとえば

- ・男女平等を育てる教育や啓発を行う
- ・男女平等な労働環境を作る
- ・ともに支えあう子育て、介護を実現する
- ・様々な場に女性の参画・登用を進める

様々な差別を なくすために

たとえば

- ・教育や啓発をおこなう
- ・実態をつかむ
- ・役立つ情報を行政が提供する

(文：古賀)

『未来世紀ニシナリ』

今回は人権センター情報室のDVDライブラリーから『未来世紀ニシナリ』の紹介です。

大阪市西成区…今にして思えば、私が耳にした初めての部落差別発言は、中学生の頃と同級生による「大阪にはニシナリっていうこわいところがあるらしい」というものでした。その他にも、“在日”、“ドヤ街”など、マイナスイメージで語られることが多い街。そうした諸々の「現実の切羽詰まった課題」をはねかえし、「悪循環を断ち切る」取り組みが描かれている、というのですが…

まず驚いたのが、私の描いていた「ドヤ街」のイメージと実際の映像とのギャップでした。映像から受ける感じでは、想像したよりもずっとこぎれいで近代的な街並みになっています。しかし、西成区が抱えている社会的課題はこれまでと変わることはなく、住民の4分の1が生活保護を受けており、ホームレスの人びとが多い実態もあります。

そんな中「企業としての儲けも大切だけど、それよりも人のつながりを大切にしたい」というコンセプトで「くらし応援室」という会社を立ち上げ、不安定就労で困窮している人たちやホームレスの人たちを支援する取り組みを続けている人々の姿を中心に追っていきます。

スタッフの人々は「ホームレスは人生の中の過渡の部分であり、難儀な時。そういう時期にある人にやさしい社会を」と、そしてそういう時期からの「出口があるまちに」と語ります。

NPOとの協働が成功し喜ぶ日もあれば、

高齢労働者の予期せぬ孤独死に直面し落ち込む日もあります。そんな悲喜こもごも手探りの取り組みのヒントを求め、ロンドンの先進的な事例を視察に行く場面があります。

一見こわそうなスキンヘッドでプロレスラー並の体格の白人男性が、「自分も元ホームレスだったが、ここの仕事を誇りにしている」と胸を張り、にこやかに笑いながら「こいつもホームレスで俺の後ろに入ったんだけど、今じゃ大事な俺の片腕さ！」とちょっと表情の硬い黒人青年の背中を叩きながら紹介する場面がありました。国・人種を問わず直面している問題は同じであること、そしてその解決のためにめざすものも同じ「人と人とのつながり」であることを実感するシーンでした。

ハイライトは、無断で抜けてしまった青年社員が久しぶりに会社に顔を出し、それをスタッフが迎える場面です。何度も裏切られてきたスタッフはどう対応するのか…続きは見てのお楽しみ。

映画の最後にナレーションで流れる「人を認め、人を信じ、人に任せること」という言葉に、改めて「人権のまちづくり」に大切なものを考えさせられました。

(文：有田)



監督・脚本／
田中 幸夫
山田 哲夫

企画・制作／
(株)フルーク
風楽創作事務所

つながり

「当選おめでとうございます」昨年師走、ひよんなことから山口県のとある温泉旅館への招待状が舞い込んできました。もちろん決行！せっかくだからと仙崎にある童謡詩人・金子みすゞの記念館と、すぐ前の“みすゞこうぼう”なる店に足をのぼしたところ、そこには、彼女の詩に曲をつけて20数年歌い続けているフォーク歌手の店主が立っていました。短い時間ではありましたが苦労話や歌を聞く中で、ポツリと

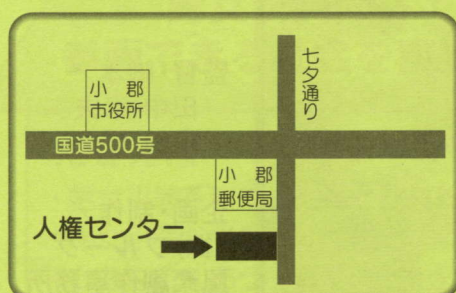
「人間どこかでつながっていますからねえ・・・」

“つながり”といえは、人間は自然の一部であり、自然とつながっています。そのつながりを断ち切る地球環境の悪化が問題になり、地球が悲鳴をあげています。これ以上悪化させないためには、自然に対する“畏敬の念”は欠かせません。それは、人間の関係においても同じことが言えるのではないのでしょうか。そのベースになるのが、人としての“こころ”であり“やさしさ”だと思ふのです。

金子みすゞの作品は、子どもたちの無垢な世界や、自然や宇宙の成り立ちをやさしい言葉に託し、大切な“こころ”のありかを歌った詩だと言われます。彼女も自然と人間の“つながり”を意識し、大切にしていたのではないのでしょうか。仙崎で偶然出会ったあの歌手は、みすゞの詩のそんなところに魅かれて歌い続けているのかもしれない。

思いがけない小さな旅は、人として大切なことを思い起こさせてくれた旅となりました。

(文・野瀬)



小郡市人権教育啓発センター

小郡市人権教育啓発センター

所在地：〒838-0141 小郡市小郡296
でんわ&Fax：0942-80-1080（直通）
E-mail：oh-rec@iwk.bbiq.jp
H.P. <http://www.city.ogori.fukuoka.jp/oh-rec/>